

ハタネズミ *Microtus montebelli* (Milne-Edwards)

【選定理由】

本州、九州、佐渡島、能登島にのみ生息する日本固有種であるが、近年の市街化にともなってその生息環境が急速に失われつつあり、生息域と生息数の減少がいちじるしい。

【形態】

体重 22～62g、頭胴長 95～136mm、尾長 29～50mm、後足長 16.5～20.4mm、耳介長 10.0～12.2mm、頭骨最大長 25.5～29.2mm。背面の毛色は黄褐色から灰黄褐色まで変異があり、腹面は灰白色。後足底の蹠球数は 5 個と 6 個の場合があり、前者が多い。体の大きさは南方のものが北方のものより大型化する傾向がある。骨口蓋の後端にはヤチネズミやスミスネズミにはない窪みがある。大臼歯は生涯無根。乳頭式は通常 2+0+2=8。歯式は I1/1, C0/0, P0/0, M3/3=16 (子安・織田, 2009 など)。

【分布の概要】

【県内の分布】

犬山市、江南市、春日井市、稲沢市、北名古屋市、愛西市、名古屋市(中区では絶滅)、長久手市(過去に記録がある：長久手町生活環境部環境課, 2010)、知多市、東浦町、豊田市、みよし市、岡崎市、刈谷市、安城市、西尾市、幸田町、設楽町、豊根村、豊川市、田原市(宮尾ほか, 1984；鳥居, 2000；子安・織田, 2009；小鹿, 2015)。

【国内の分布】

本州、九州、佐渡島、能登島(Iwasa, 2015)。

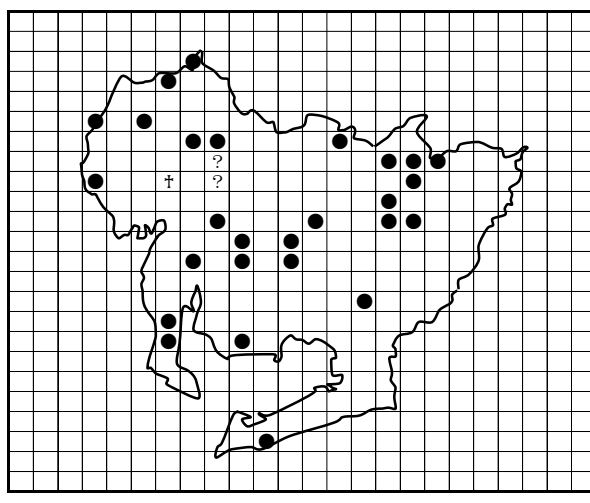
【世界の分布】

日本固有種(Iwasa, 2015)。

【生息地の環境／生態的特性】

低地から高山にまで分布し、広葉樹林や針葉樹林にも見られるが、低地の農耕地を含む草原的環境に最も多い。地下性が強く、地表直下にトンネルを掘って生活している。植物食に最も適応したネズミ類で、草本類やその根、根茎などを食べる。繁殖期は北方や高標高地では夏を中心とした 1 山型であるが、南方では春と秋の 2 山型で、1 回の妊娠で 1～9 仔、通常 3～5 仔を産む。愛知県内での詳しい生態は不明(子安・織田, 2009 など)。

県内分布図



【現在の生息状況／減少の要因】

大正から昭和の初年にかけては、ハタネズミはハツカネズミとともに県下の平野部を代表する野ネズミであり、名古屋市の中心部(中区御器所・高畑)でも生息していた(青木, 1926)。現在では個体数がきわめて少なくなっており(宮尾ほか, 1984)、これは市街化の進行による生息地の減少が主因と考えられるが、ユーラシア北部のタイガ地域と台湾高地に類縁を持つ北方系の種なので地球温暖化の影響を受けている可能性も考えられる。名古屋市名東区猪高町の明徳公園でも 1979 年に確認されているが(宮尾ほか, 1984)、この地域は宅地に囲まれた小区域であるためにノウサギ同様に絶滅した可能性が高い。長久手市の北西部と南西部では 2005 年以前に生息記録がある(長久手町生活環境部環境課, 2010)ものの近年の生息状況は不明であり、絶滅した可能性がある。

【保全上の留意点】

牧草地を含む草原、造林地、河川敷・耕地とその周辺の草地在がハタネズミの主要な生息地であるが、市街地周辺ではこうした環境が急速に整備され失われつつある。こうした場所での環境整備に際しては格段の配慮が必要であり、地域個体群の絶滅をもたらさないようにしなければならない。

【特記事項】

ハタネズミは日本の 4 つの島にのみ生息する固有種であるが、染色体からみた最近縁種は台湾の高地にのみ生息する固有種のキクチハタネズミ *Microtus kikuchii* とユーラシア大陸北部に分布するソンドラハタネズミ *M. oeconomus* であることが示された(Mekada, et al., 2001)。化石は、本州の中期・更新世および本州・九州の完新世から出土している(Iwasa, 2015)。

【引用文献】

青木文一郎, 1926. 名古屋市及其郊外に棲息する鼠類の観察. 動物学雑誌, 38: 341-346.
Iwasa, M.A. 2015. *Microtus montebelli* (Milne-Edwards, 1872). The Wild Mammals of Japan, 2nd ed., pp.163-164. Shoukadoh Book Sellers, Kyoto.
金子之史, 1975. 日本の哺乳類(12)齧歯類ハタネズミ属. 哺乳類科学, 30: 3-26.
子安和弘・織田統一, 2009. ハタネズミ. レッドデータブックあいち 2009 動物編, p.83. 愛知県環境部自然環境課, 名古屋.
Mekada, K., M. Harada, L.K. Lin, K. Koyau, P.M. Borodin and S.-I. Oda, 2001. Pattern of X-Y chromosome pairing in the Taiwan vole, *Microtus kikuchii*. Genome, 44: 27-31.
宮尾嶺雄・花村 肇・高田靖司・酒井英一, 1984. 哺乳類. 愛知の動物, pp.286-235. 愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
長久手町生活環境部環境課, 2010. 長久手町環境資源目録, 48pp. 長久手町, 愛知県長久手町.
小鹿登美, 2015. 安城市におけるハタネズミの記録. 三河生物, 7:89.
鳥居春友, 2000. 哺乳類. 新編東浦町史資料編 2(自然), pp.190-200. 東浦町, 愛知県東浦町。

(子安和弘・織田統一)